



おきなわ

私保連だより

No.

130

2016年
(平成28年)
10月25日

発行所

一般社団法人
沖縄県私立保育園連盟
〒903-0804
那覇市首里石嶺町4-373-1
TEL. 098(887)1270

発行人：當 間 左知子
編集：広 報 部



じゃがいも おおきなあれ！（夢の子保育園：中部北）

も く じ

創立50周年記念誌出版祝賀会……………	2P	公立保育所の在り方について……………	7P
沖縄県保育研究大会……………	3P	インタビュー 玉城善徳先生……………	8・9P
私保連研究大会(東京)……………	4P	沖私保連の動き……………	10P
私保連文化活動(レキオス公演)……………	4P	子どものつぶやき……………	10P
園長研修会……………	5P	編集後記……………	11P
新規加入園紹介……………	5・6P	広告……………	11・12P

創立50周年記念誌出版祝賀会

平成28年8月29日(月)、那覇のホテルロイヤルオリオンにて、一般社団法人沖縄県私立保育園連盟の創立50周年記念誌出版祝賀会が催されました。

県私保連 當間会長のあいさつに始まり、記念誌の編集委員長でもある仲地賢先生より、記念誌編纂の事業報告がありました。また、顧問の玉城善徳先生より50周年記念誌発行を祝してのごあいさつを頂き、宮城幸先生の明るい乾杯の音頭で、祝賀会の幕が開きました。

今回50周年記念誌を発行するにあたり、編集作業や印刷等でもお世話になった光文堂コミュニケーションズ様へも感謝状が贈られました。また会の終盤には、記念誌編集に携わった高良桂子先生、小橋川真智子先生、米須江利子先生、金城美江子先生、そして玉城善徳先生から、編集作業の苦労話や50年を振り返っての思い出、そしてこれから急速に変化していく保育情勢に惑わされず、組織として、本質である「子どもの健やかな育ち」をしっかりと保障していこうと熱く語っていただきました。

50年の歩みを詳細に記録した本記念誌は、これからの諸問題に対し私たちがどう向き合いどう対応していくか、その解決の一助となるのではないのでしょうか。

創立50周年記念誌の出版を祝い、終始和やかな祝賀会となりました。



第28回沖縄県私立保育園連盟 保育研究大会

平成28年8月27日(土)第28回保育研究大会が沖縄都ホテルにて開催され、『保育とソーシャルワーク～保育所に求められている社会福祉機能～』と題し、長谷川俊雄先生(白梅学園大学子ども学部教授)による基調講演が行われました。その中で、日本は15歳以下の子どもが2日に1人亡くなっていて、虐待や心中などの殺人も加えると、1日に3人の子どもが亡くなっているという現状や子どもの6名に1名、沖縄では、3名に1名が貧困であるという深刻な状況にあることを示していただきました。

「保育所の始まりは貧困対策からの出発であり、保育所は貧困の最初の砦である。普遍的なサービスでありながら、特別な配慮が必要な子どもたちを支援することが可能である。保育所は富裕層、貧困層に関係なく子どもたちが一緒に生活できる生涯最初で最後の場である。

保育所の現代の特徴(ソーシャルワークの視点から)としては、保護者の日々の暮らしを間接的に観察できること、子どもが日々家に帰ることにより子育ての経験を保育所と保護者が共有できること、偏見や差別がない施設であることが挙げられる。子どもの言動・行動・状態をとおした家族アセスメントの可能性、個別化と「異なること」の尊重(みんな違っていい)ができる場として捉えることができる。

また、保育はソーシャルワーク、保育士はソーシャルワーカーとして、保育所の中ですでに実践されている。子どもと保護者を保育ソーシャルワークで支えることができることはとても素晴らしいことだ。」と、日本全体の事だけでなく、沖縄の現状も踏まえての子どもの貧困の話をご教授いただきました。また、先生ご自身は沖縄が大好きで大学では“かりゆし先生”と呼ばれていることなど、厳しい現代社会の重く、暗くなりそうな話の中に、笑いの場面もあり、あっというまの一時間半の講演でした。

働き方の多様化、家庭の多様化など、これからますます、保育所の果たすべき責務も多様化し重要となってくることを再認識することができた基調講演でした。

分科会では3つの分科会においてこれまでの研究の成果を発表しました。

★第一分科会 助言者 照屋建太氏(沖縄キリスト教短期大学 准教授)

発表園 「自然体験活動を楽しむ保育」～めぐまれた環境の中で～ 太陽の子保育園(北部)

「わたしたちのくらすまち」～いちごえ保育園周辺の散歩道～ いちごえ保育園(那覇)

★第二分科会 助言者 柳生崇志氏(沖縄女子短期大学 准教授)

発表園 「一人ひとりの自主性を育む保育を目指して」 ピノキオ保育所(中部南)

「子どもが主体的に生活できる環境づくり」 みつば保育園(先島)

★第三分科会 助言者 平田美紀氏(沖縄女子短期大学 教授)

発表園 「誕生会を通して育む自己肯定感」～愛する力を高める魔法のことば“大好きぎゅっ”～ たいら保育園(中部北)

「産休明け保育を実践して」～2ヵ月で預けるってかわいそう?～ 知念あさひ保育園(南部)



長谷川俊雄 先生



當間左知子 沖私保連会長

全国私立保育連盟 研究大会(東京大会)



全私保連東京大会は7月4日～6日にかけて、グランドプリンスホテル新高輪にて開催されました。初日の特別講演では、多くのテレビ番組にご出演されている脳科学研究所所長の澤口俊之先生が「子どもの脳をいかに育むか」というテーマで、脳の監督役をつかさどる前頭前野の役割と、そこから発信される夢を叶える能力(HQ)の育成について、澤口先生独特な語り口調で、ユーモアを交えながらお話しして下さいました。

2日目はそれぞれの分科会にて学び合いを深め、沖縄県からは石垣市のみやら保育園が「楽しい食育をめざして～食べる楽しみ 育てる喜び～」というテーマで、食育を通して「食を営む力」の基礎を培い「生きる力」を育むことを目的とした活動に取り組み、第6分科会にてその実践報告と研究発表を行いました。夕方からの懇親会では互いの交流を深め、また10月に開催される「青年会議おきなわ大会」のPRもさせていただきました。

3日目の記念公演は、女優であり戸板女子短期大学の客員教授でもある菊池桃子先生より「子ども達の未来へ向けたキャリア準備」というテーマでお話しして頂き、子どもたちが未来へ向けて目標を定めることができるよう、その基盤となるキャリア教育の重要性についてご講演下さいました。

「見つめよう 子どもの心 咲かせよう子どもの未来」をテーマに始まった本大会は、保育界に迫られている急激な変化と、私達に求められている役割と責任について深く考えさせられたのと同時に、そんな中でも「子どもにとっての最善」を見失うまいと心に誓った大会となりました。



私保連文化活動(レキオス公演)

平成28年9月4日(日)、沖縄市民会館大ホールにて、一般社団法人沖縄県私立保育園連盟主催の文化事業レキオス公演「島の祭音」が開催されました。

この文化事業は、創作芸団レキオスを中心とした芸能舞台ではありますが、他にもミュージシャンの日出克氏や城間健市氏、和太鼓奏者の仲宗根達也氏など名だたるアーティストの方々が参加し、その魅力的な音楽とレキオスの躍動感あふれるエキサイティングな演舞との融合により創り上げられた舞台で、その迫力に観客も圧倒され、会場は大いに盛り上がりました。

舞台は13時と16時の2回公演で行われましたが、両公演とも多くの方々が来館し、沖縄の文化・芸能に魅了された1時間を過ごすことができたのではないかと思います。

私たちは保育のみならず、様々な芸術・文化に触れることによって自らの感性を磨き、より豊かな想像力・発想力を養い、保育を通してそれを子ども達に伝えていかなければいけないと、この舞台を鑑賞しながら痛切に感じました。



写真提供：
創作芸団レキオス

園長研修会「児童福祉としての保育を守るために私たちがしなければならないこと」



平成28年9月22日(木)午後1時半より、沖縄県総合福祉センターゆいぽーる(那覇市)にて園長研修会が行われました。(94名参加)

講師として伊藤周平先生(鹿児島大学法科大学院教授)をお招きし「児童福祉としての保育を守るために私たちがしなければならないこと」と題し、ご講演下さいました。

お話の中で、社会保障改革の名のもとに、社会保障費の削減や抑制が行われ、法人税は削減され、企業優遇の政治が浮き彫りとなってきたこと、保育士の処遇改善のためにももっと保育士の給与をあげることに、保育園の増設が急務であると指摘されていました。

又、運営費ではなく給付金にすることで、企業参入が容易い状況になっており、待機児童解消の名のもとに、営利目的の企業が保育園に参入することは福祉の精神がない状態となり、果たして保護者や子どもたちに寄り添い、より良い支援が出来るのか疑問です。とお話されました。さらに、公立保育所の役割として、「困難を抱えた家庭を支援するのが公立の役目であり、企業では利益が出ないことをする訳がない。」と鋭く指摘され、子どもたちには保育を受ける権利があり、そうさせるためにも(市町村の保育の実施義務)我々の運動が大事になってくるのだとお話しされました。

児童福祉施設としての保育園をどう守っていくのか、これまでの経緯(子育て支援新制度について)を知り、私たちはもっと怒り、学び、子どもたちの最善の利益を守るために、保育所保育指針に基づき、行動を起こしていかなければならないと改めて私たちの組織としての結束と行動が大切だと確認できた講演となりました。



伊藤周平 先生



當間左知子 沖私保連会長



新規加入園紹介



社会福祉法人 大芽福祉会
大芽保育園(沖縄市)

園長 宇良 一美

本園は、平成26年度1月より、認可支援事業を受け、平成28年6月に社会福祉法人大芽福祉会大芽保育園として開園いたしました。

沖縄市の東部の住宅街に位置し、地域の方々とも交流を深めています。

園児一人ひとりの、気持ちをしっかり受け止め、理解し、笑顔の絶えないアットホームな保育園を心掛けています。

これからも、職員が一丸となり、子ども達の健やかな成長に

寄り添い、保護者を支え、地域に根ざした保育園を目指していきます。

今年度より新会員として私保連に加盟しました。初めてづくしですが、今後とも会員の皆様からのご指導の程、宜しくお願いいたします。





社会福祉法人 夢工房
美ら夢保育園 (那覇市)

園長 喜友名 静子

平成28年6月1日、社会福祉法人夢工房が運営する24園26施設の中の一園、「美ら夢保育園」として開園。園舎面積、2307.54㎡、鉄筋コンクリート造3階建て。地上庭園369.22㎡、屋上庭園は198.24㎡。

建物の周りは、ハイビスカスを中心に沖縄在来植物が植栽されています。また井戸水を活用して、小川の流れと「ヒンブン」、「中庭に設置された壺」から水が流れるようになっていて、水と緑に囲まれた生活・保育空間です。定員150名。

子どもの生活に「選択の自由」を十分に与えられる保育者集団を目指しています。この広い敷地で、自然と戯れ、遊びを満喫し、伸びやかな発達が保障される「美ら夢保育園」であれと願っております。



社会福祉法人 大山福祉会
どりーむ保育園 (沖縄市)

園長 山根 ひとみ

平成28年7月1日から、社会福祉法人大山福祉会 どりーむ保育園として、開園することができました。

本園は、認可外保育園として20年間保育をしてきて、子供たち一人ひとりにより良い保育環境が必要だと感じ、認可保育園への道を目指しました。沖縄市の東部に位置する泡瀬地区は待機児童の数も多く、少しでも子育てのお手伝いができるよう、地域に根ざした保育を目標に日々奮闘中です。

定員は60名と少ないですが、園児の可能性を伸ばし心身共に健やかでたくましく育つ園に、また、園児全員が「保育園

大好き!」と言ってもらえるような園にしていきたいと思います。保育者が、よく食べよく笑いよく遊べば、子供たちもののびのびとキラキラ輝く笑顔であふれる毎日を過ごせると考えています。

至らない点も多々あるかと思いますが、職員一同、精進してまいりますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。



社会福祉法人 さざなみ福祉会
さざなみっこ保育園 (沖縄市)

園長 高良 さゆり

社会福祉法人さざなみ福祉会さざなみっこ保育園は、平成28年7月に開園いたしました。当園では『想』・相手に心を寄せる・心の上に相手を置く・心で相手を見るを理念に、職員と保護者と地域が心を寄り添って信頼関係を大切に、子どもたちの為に協力しあえる保育園を目指しています。

園の近隣には公園と、泡瀬干潟があり、子ども達が自然にふれあい心豊かに育つための環境作りをしながら、一人一人の健やかな成長を見守る場にしたいと思っています。また、自

治会と連携した活動にも力を入れ、地域の方々や近くの保育園と、田植えや野菜作りを楽しみながら交流を深めています。

これからも地域に根ざした保育園として頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



公立保育所の在り方について

一般社団法人 沖縄県私立保育園連盟

私たちは、教育を受けることが児童の権利であり、公立施設にて保障されているように、保育を受けることも権利であることをもう一度再認識しなければならない。児童福祉法24条1項には、“保育を必要とする児童を保育所において保育しなければならない”と市町村の保育実施義務を規定し、児童の側からすると保育を受ける権利を保障している。

児童福祉法の理念(1条・2条・3条)を実現するためにも、行政の直営施設としての公立保育所の果たす役割は大きい。特に以下の2点においては現在民間保育所では対応できない案件である。

①昨今の児童を取り巻く社会情勢の変化にともない児童虐待件数が急増している。平成16年の児童福祉法改正で児童家庭相談に関する市町村の役割が法律上明確化され、要保護児童地域対策協議会が法定化された。様々な行政機関が連携する中で問題が深刻化する前の発見・早期対応ができるのも行政の直営施設である公立保育所の役割であり、緊急的措置入所を受入れる枠を確保するなど民間保育所ではできない役割と、児童福祉法に謳われる社会的責任が公立保育所にはある。

②新制度下においても、保護者が保育所入所を希望し保育を要すると認定されれば自治体において保育を保障しなければならないが、それは障がい等特別に支援を要する児童についても同様である。学校教育現場においては児童が精神的、身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、障がいのあるものと障がいのないものが共に学ぶ仕組み(インクルーシブ教育)が、自己の生活する地域において公立施設にて保障されている。このことは乳幼児期から保障されるべきことである。すでに民間保育所においても支援を要する児童に対応はしているが職員配置に係る人件費を確保するためには概ね対象児童3名に対して1人の加配が事業を継続していくギリギリのラインである。(※障がい児保育事業が一般財源化されたため自治体により補助額は異なる)そのため、保護者の意向により保育所保育を希望した1対1の加配を要する重度の障がいを持つ児童の入所に対応するには、公の直営施設である公立保育所にて社会保障として保育を行う必要がある。※社会保障として起債してでも事業を維持していくことができるのも公の直営施設であるが故である。

また、国に対しても一般財源化されている公立保育所運営費・整備費、そして障がい児保育を国庫補助制度に戻し、公立保育所の増設を維持し、障がい児の受け入れを進めていく必要がある。公立保育所は、公的責任による地域の保育標準となり、我々社会福祉法人とともに、地域の子育て支援の拠点になってきた。しかし、公立保育所運営費の一般財源化(2004年)と整備費の一般財源化(2006年)により公立保育所の廃止や民営化が進められ1999年には1万2875ヶ所から2014年には9791ヶ所と減少を続けている。

児童福祉の理念を実現するため当時の自治体長を中心として整備された公立保育所を全廃させることは、影響を受ける児童はいる。確実にその児童の保育を受ける権利を奪うことになり、将来に禍根を残す施策となる。今一度社会的に救済を必要とする児童への対応が迅速に行える体制を維持できるよう公立保育所の存続を強く要望する。

児童福祉法

第一条 全て児童は、児童の権利に関する条約の精神にのっとり、適切に養育されること、その生活を保障されること、愛され、保護されること、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉を等しく保障される権利を有する。

第二条 全て国民は、児童が良好な環境において生まれ、かつ、社会のあらゆる分野において、児童の年齢及び発達の程度に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮され、心身ともに健やかに育成されるよう努めなければならない。

〇2 児童の保護者は、児童を心身ともに健やかに育成することについて第一義的責任を負う。

〇3 国及び地方公共団体は、児童の保護者とともに、児童を心身ともに健やかに育成する責任を負う。

第三条 前二条に規定するところは、児童の福祉を保障するための原理であり、この原理は、すべて児童に関する法令の施行にあたって、常に尊重されなければならない。

インタビュー 玉城善徳先生

30年という長きに渡り、沖縄県私立保育園連盟の会長として、沖縄の保育界に多大な働きをなさった玉城善徳先生。

子どもたちにとって最善の利益を保障し、子どもたちの笑顔が弾けるように、又、保育士が働きやすい環境になるためにと奮闘して下さった玉城先生の働きの凄さに心を打たれます。

今年度より私保連の顧問として沖縄の保育界を見守り、支えて下さいます。先生の今までの歩みを振り返って頂きながら、これからの保育界に求めておられることをお話ししていただきました。



★玉城先生の「保育運動の原点」とは何ですか。

昨今、教育とは?保育とは?と論議していますが、教育機関で行われている事だけが教育ではありません。昔は、地域全体が一種の教育機関になっていました。何か悪さをしたら、叱ってくれた。先輩が後輩に伝えていくことも教育。生きていくすべてを教えていくことはまさに教育です。社会は様々な人たちで成り立っています。例えば、素晴らしい設計図を書いても、高所で作業してくれる方々がいなかったら立派なビルはできません。現代はそういう方々をきちんと評価していません。学歴だけで人を評価する社会の風潮があります。それでは保育士の価値、社会的ステイタス(地位)はあがりません。最近、保育士不足がクローズアップされてからやっと見直そうとなってきていますが、次代を担う子どもたちを育てているという保育の重要性が認められ、保育士の社会的ステイタスがあげればそれに伴い処遇も必然的に改善されていきます。ここに保育運動の原点があります。教員は教育を行っているという積極的なイメージから何でもできるといった価値体系になっていて、保育士資格がなくても保育園現場で働けるように制度改正されました。しかし、乳幼児期の子どもたちを保育するということは単に知的レベル、知識を供給するだけではできません。協力して戴けることは有り難いけれども無条件でよしとする考えには賛成できません。

★最近、学校現場は人間教育ではなく、塾化してきているように感じます。又、部活だけが重要視され、加熱しているようですが、それについてどうお感じになりますか。

特に沖縄は偏っているように感じます。興南高校の我喜屋先生は野球だけでなく社会人として生きていくために、必要な学力をつけないといけないと考え、練習時間もきちんと区切って行っていると聞いています。一定レベルの成績がないと部活ができないなど実践してこられました。球児の将来も考えて学力をつけていかなければいけないと思います。知識の供給だけでなく、生きていくための土台をつくるためにもやらなければ。将来の足場となるような教育の場であってほしいと思います。そこを考えると保育園もまさしく生きる足場づくり、基礎づくりの場です。

★保護者は「歩けた」「～ができた」など「見える部分」の育ちや結果を求めがち。そこに保育士は振り回されないようにしなくてはいいと思います。子どもにとって大切なものは何か、発達の保障をどうすればいいか考えながらも、こうした「結果」を求める保護者との間に挟まり、苦悩している保育士も少なくありません。そこで保育士を続ける自信を失い、悩んでしまうのではないのでしょうか。それについてどうお感じになりますか。

保育士自身が勉強して、親を説得できるための知的なバックボーンもないといけません。それぞれの親に合うようなアドバイスや子どものための一言がないと。そのためには自らスキルアップする努力が必要です。ただ、毎日を目的意識もなく過ごしていいとはいけないと思います。保育の中で特に、環境は大切といいますが、例えばプールあそび一つとっても、子どもが遊びを展開したいと思えるような環境設定、保育者もその場に相応しい服装で参加すると子ども達の気持ちもより高まっていきます。保育士の個人的な素養にまかせっきりになってはいけません。保育における環境設定の視点を職員全体で考えていかなければいけません。

★小規模保育等、地域型保育事業施設が少しずつ増えてきていますが現状をどう考えますか。

小規模保育事業等は、直接契約であり市場化一步手前のものです。市町村は利用認定するだけで責任がなく、自己責任型社会になりつつあります。以前、男女



共同参画会議の中で、待機児童ゼロ作戦ができました。そのとき企業側が主張したことは、最低基準を維持するための保育費用として位置付けられている運営費を企業が参入しやすいように基準を緩和し、例えば株主配当にも回せるように利益、処分の自由化を迫りました。最終的には、応能負担から応益負担、多様な設置主体参入と直接契約にしたいと。そこで、児童福祉としての保育を守るため我々は日比谷公会堂に集まりました。男女共同参画社会の名の下、大事なところが崩れようとしています。先般、認定こども園が4,001箇所になったと報道されましたが、喧伝(騒ぎたてること)しています。あきらかに意図的に直接契約施設へ誘導している感があります。資本主義社会の典型がアメリカ型社会ですが、格差社会により様々な弊害が出ています。

事故が起こってしまったから原因究明しても犠牲になった方々が戻ってくるわけではありません。事後チェックルールへの変更の危うさをもっと真剣に考えるべきだと思います。保育の分野にも市場原理を取り入れようとする動きがありますが、それでは子どもたちの安心・安全は守られません。

★私保連も50年の歴史があります。苦勞して保育園を作ってきた先輩方のこれまでの頑張りを知り、私たちはこれからもっと努力していかなければと実感しています。世代交代の園長も増えてきている中、私保連が大事にしてきた歴史をもっと大切にしていかなければと感じますが。

公立保育所が一般財源となり民営化が進み、一部の自治体では全廃の動きもあります。24条1項に自治体の保育実施責任を謳いながらも民間に任せきりではまさに市場化への一里塚です。日本社会全体が市場原理主義、自己責任型社会へ向かっているという現状を認識する必要があります。その流れの中で保育も例外なく市場化の対象になっていると考えるとどう行動を起こせばよいか見えてきます。そもそも公が行うべき社会福祉事業を補てんする形で社会福祉法人はできました。個人の財産を法人に寄付し、基準を満たすことにより認可され事前チェックされてきました。しかし規制が緩和された分野では事故が起き、人が犠牲になっています。参入に対する厳しい規制がないからこうなったのです。我々、保育の世界はこうあってはなりません。子どもの命がかかっているのですから。制度を守るためには個人ではできません。組織で行動することが重要です。

★今、先生のお話を聞いていて、保育制度を守るために、もっと組織として結束していかなければとますます感じましたし、自分たち一人ひとりが発信するためにどうすべきだと思いますか。

保育士だけでなく、園長自身の研修も必要だと思います。

★総会で先生が30年続けてこられた話しをお聞きして、とても感動し涙が出ました。言葉では言い表せない苦悩があったことだと思います。今日まで保育界をリードしてきた、その原動力は何ですか。

「もう30年か」とは思いますが、苦しいと思ったことはないです。苦しいと思っていたら続けていません。何らかの力に動かされてきました。保育という仕事の社会的地位をどう高めていけばいいかと考えてきました。制度上は専門学校を出て2年程度すると園長になれますが、実際そのくらいの経験で職員の資質向上や、保育について持ち込まれる様々な問題に对应できるか、又、応えるくらいの素養があるのかといった疑問があります。やはり園長は、子どものためにどうすべきか等考えたり、対応したりするには様々な人生経験が必要なのではと思います。日々、周りにあるものに興味を持ち、体験し、学ぶ姿勢が必要です。保育士も園長も、より科学的に子どもに接するためにどうすべきか自分自身を高めていかなければならないと思います。会長をしていて苦しいとは一度も思ったことはありません。ただ、主任を中心として保育園を見てくれる人がいたから頑張っただけでした。今は保育園の子どもたちと毎日過ごすことができ、よかったと思います。



写真提供：室川保育園

..... 沖私保連の動き

7月

- 12日(火) 第5回理事会
- 19日(火) 研修部会
- 20日(水) 九州保育三団体協議会理事会
(北九州市)
- 21日(木) 九州保育三団体研究大会
(北九州大会)
- 28日(火) 事業部会 広報部会
- 29日(金) 全私保連予対委員会(東京)
当間会長、田仲予対部長

8月

- 9日(火) 第6回理事会
- 15日(月) 研修部会
- 18日(木) 第7回理事会(緊急)
- 19日(金) 研究大会運営委員会
- 25日(木) 事業部会 広報部会
- 26日(金) 予対部会
- 27日(土) 第28回保育研究大会
- 29日(月) 広報部会
50周年記念誌出版祝賀会

9月

- 1日(木) 全国調査部長会議(京都)
- 4日(日) 文化活動「島の祭音」
- 7日(水) 九州保育三団体協議会理事会(熊本)
当間会長 他2名
- 12日(月) 全私保連幹部セミナー(京都)
当間会長 他2名
- 14日(水) 保育協議会委員会 当間会長 他3名
- 15日(木) 事業部会
- 16日(金) 第8回理事会
- 21日(水) 予対部会 研修部会
- 22日(木) 園長研修会
- 27日(火) 三役会

10月

- 7日(金) 50周年記念誌 編集委員会
- 11日(火) 各部ブロック役員研修会
第9回理事会
- 18日(火) 九州保育三団体協議会会長会(福岡)
当間会長、予対部長

子どものつぶやき

★8月中旬、我園の農園では夏野菜収穫の真っ只中…。

毎日水かけや草取りをして成長を見守っていた3歳の女兒より こ～んなつぶやきが…。

オクラを収穫した時「オクラの毛はやさしい毛だね」とオクラについているうぶ毛を見て表現したり、葉っぱに隠された小さな実をつけたゴーヤーを見つけ「赤ちゃんゴーヤーさん、かくれんぼしているみたい」と話したり、子どもたちの豊かな感性に触れ心がほっこりしました。

★マンゴー(初出荷)のイベントへ出かける4、5歳児。お友達のユカタの絵柄を見て一言。

「わあ～！！この金魚かわいい～！この間まで大切に飼ってた死んだ金魚に似てる～～」

★R子さん「せんせ～、Aくんがまちがえて山(砂山)こわしよった～」

Aくん 「はあ？まちがえてないし！！」

R子さん「え～！！じゃ～わざとってこと??」

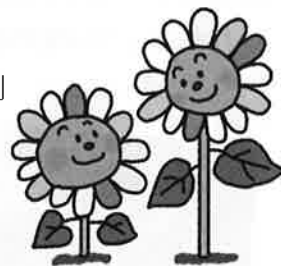
★「あ！！アリがひなんくんれんしてる！！」

…保育士がアリの巣を駆除するため、スプレーを吹くと、サ～っと逃げるアリの大群を見ての一言。

避難する意味、ちゃんとわかっているところが微笑ましいし、嬉しいですね。

★微笑ましいーコマ。～お弁当の日～

お弁当を前に我慢ができないAちゃん。「まだ、お弁当さわらんよ～、置いておいて」と担任に言われ、(触らない約束)「じゃ、指切りしよう！」のよびかけに、親指を立ててグーサインを出したAちゃん。かわいい～。



編集後記

- 前進あるのみ！で突っ走った129号作り。當間会長はじめ広報部員の先生方や多くの先生方のお力をお借りしての発行となりました。本当にありがとうございました。今号では玉城善徳先生から直接お話を伺うことができ、又、その後も原稿を修正する度に玉城先生の元へ通い、たくさんのお話をお聞きすることができました。私自身にとって多くの学びと感動の時間になりました。編集作業は想像以上に大変なこともあります。私保連だよりの発行を心待ちしている皆様のご期待にお応えできるよう努力を重ねていきたいと思っています。(理子)
- 初めて取材させて頂くなかで、取材して感じたことを会員の皆様はどう伝えていくか、それがとても難しいと感じました。稚拙な文章でしか表現できませんが、これから様々な取材現場を経験して勉強し、読み手の皆様にとって読み応えのある記事をお届けできるよう頑張っていきたいと思っています。(モリモリ)
- 新規開園する保育園さんの原稿を見せていただきました。年度の途中でも開園し、大世帯になったな…。つぶやきは保育士が楽しみで大好きなコーナーです。(T・O)
- 広報部に配置されたことを知って、こんな文才のない私なのに大丈夫なのかなと思ったのですが、編集に関わり楽しさを覚えました。「子どものつぶやき」癒されます。(高嶺)
- 8月27日保育研究大会に参加して基調講演で社会福祉の中でソーシャルワーカーの役割が保育園現場では保育士が担っているとの話し。保育士がもっと自覚しなくてはと思いました。子どもの貧困も親や子どもの様子に気を配っていると手助けの手段を見つめることができるのだと気づきました。すごくいい学びでした。(チャコ)
- 広報部に入部して3期目になります。当初は名前だけの部員でしたが、2期目からは心を入れ替え、できる限り参加させていただきました。微力ながらも少しはお手伝いできたのではないかと思います。今回は新部長の元「本気で(少し遊び心も持ちながら)取り組んでいかないといけない」と思いつつ、今、編集後記を書いているところです。(chi-kō)
- 広報部になって避けては通れない、取材、記事を書くという作業。文章を書くことが実は非常に苦手な私にとって、一大事でしたが、ご一緒させていただいた先生に助けられました。これからは勉強させて頂く心積もりでがんばりたいと思います。(宮里)
- 雲の上の存在、玉城先生の話しが直に聞けることにドキドキ胸が高鳴りました。30年…言葉にすると早く感じますが、気が遠くなる年月を沖縄の保育界のリーダーとしての苦労や大変なことも多くありませんでしたか？に苦労とは感じなかった。子どもたちを思って、喜びを持ってやっていました…のお言葉に感動しました。(れいびょん)

★130号発行にあたり、原稿を寄稿してくださった先生方に深く感謝を申し上げます。また、お忙しい中、私保連だより掲載のためにインタビュー取材を快諾して下さった玉城善徳先生へ重ねて感謝を申し上げます。ありがとうございました。



私たちは「観光」と「交流」で
地域社会に貢献します。

地域に根ざし 世界にはばたく

ワンツー・スマイル

OTS 沖縄ツーリスト

本社:那覇市松尾1-2-3 ☎(098)862-1111

●旅行部 ●レンタカー部

本店 ☎098-862-1111

ベタルーナの新しい試みが始まりました!!



保育士の皆さんが毎日笑顔でお仕事できるように
ベタルーナは応援します。

その1 出張ワークショップ

保育園などの子育て施設は講師料無料・材料費のみで県内(本島)出張いたします。

その2 保育園割引

園で登録していただく特別価格で商品をご購入いただけます。
※園登録はウェブから登録をお願いします。

その3 寄付

ベタルーナでは売り上げの一部を沖縄県私立保育園連盟に寄付しています。

その4 園内での香り活用支援

初めてのアロマ活用をサポートいたします。2か月間の無料お試しも承っております。

詳細につきましてはインターネットで「ベタルーナ」を検索、もしくは下記QRコードを読み取りご確認下さい。ご不明な点がございましたらお気軽にお問合せください。
電話番号 098-861-5166 (ベタルーナ新都心本店) まで。





《園児総合保障制度》

☆キッズガード☆

(商品名: こども総合保険)

健やかなお子様の成長のために...

☆その他、施設長・職員の皆さまへの
福利厚生保険も扱っています。

お問い合わせは下記連絡先までどうぞ。

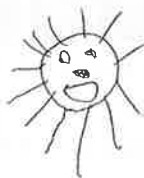
引受保険会社

AIU 損害保険株式会社沖縄支店

〒900-0015

那覇市久茂地 1-12-12 ニッセイ那覇センタービル 3F
TEL: 098-862-2174 FAX: 098-863-0960

園および 園児を さまざまなリスクから サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。
(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である
(有)ゼンポでは、園経営はもちろんのこと、
園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん

「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険」
(学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険)
「特別保育事業賠償責任保険」など、
園経営におけるリスクに関する保険を
ラインナップしています。また、それらを総合的に
補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

園児を24時間補償する
共済制度(こども総合保険)です。
団体契約による割引の適用で割安な掛金で
補償を確保することが出来ます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。
ご照会は、下記連絡先までどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育園内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

(引受保険会社)

東京海上日動火災保険株式会社
担当課: 公務部第二 文教公務室 TEL: 03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険・こども総合保障の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公社社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

保育園厨房機器・厨房用品全般
食器洗浄機・食器消毒保管庫等

(株)盛厨房設備 リサイクル厨房館

本店 〒901-2122 浦添市勢理客 2-15-1
TEL: (098) 878-3182 FAX: (098) 874-2405
山内店 〒904-0035 沖縄市南桃原 4-30-5
TEL: (098) 930-1010 FAX: (098) 930-0033

幼い胸に美しい夢と感動を
劇団 飛行船



<http://www.hikosen.co.jp>

©CIS-HIKOSEN

■〒530-0047 大阪府北区西天満4-7-3-4F Tel 06-6363-3769

ひかりのくに株式会社 沖縄営業所

TEL 098-889-4339 FAX 889-1808

✉ okinawa@hikarinokuni.co.jp

ひかりのくに

取扱: 幼児の月刊絵本・教材・楽器・積木
園児服・什器・備品・園庭遊具 他

未来の子供たちへ

絵本が育てる子供の心

チャイルドブック

明日の園環境づくりを応援します

株式会社 チャイルド本社
沖縄営業所

〒901-0203 沖縄県豊見城市長堂 144-2
(TEL) 098-856-8630 / (FAX) 098-856-8635

RICOH

リコージャパン株式会社

沖縄支社: 那覇市寄宮 1-3-37 NTT 那覇ビル 1F
支社長 白土和夫

